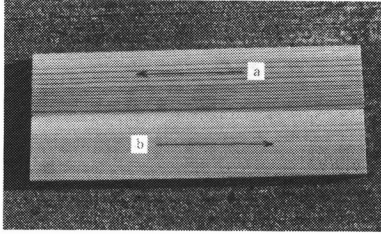


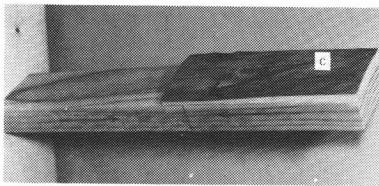
<目で見る資料>

まさ目板のかんなけずり



<図1 まさ目板の順目、逆目>

の順目切削方向が、旋回木理（構成繊維が、幹軸に対して斜めに配列する木理）と関係するためである。カラマツやアカマツ等は、繊維がS方向に配列しているため、まさ目面のかんなけずりは、元を手前



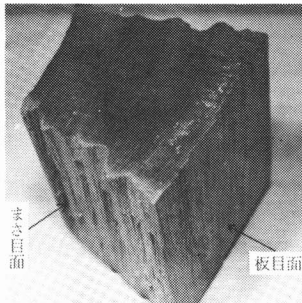
⊕ 逆目 → ← 順目 ⊗
(C：木割れ=木理方向)

<図2 カラマツの木理と切削方向>

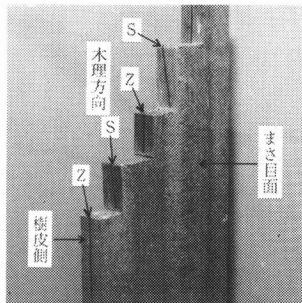
(資料提供 福大 小沢勝治助教授)

板目板のかんなけずりについては教科書にも示されているが、まさ目板の順目切削については示されていない。しかし実際にまさ目板をかんなけずりすると、図1にみられるように順目（a方向）と逆目（b方向）が生ずる。これは、まさ目板で

して木表側からみて右側の板面<図2>は木の末から元の方が順目となり、左側面では元から末が順目方向の切削となる。これに対してスギやネズコはZ方向の旋回木理を示すため、順目切削方向はちょうど逆方向になる。



<図3 ラワン材>



<図4 ラワンの木理方向>

またラワン材にみられる交錯木理は、旋回木理の一種で図3・4に示すように繊維の配列方向がS方向のところとZ方向のところとが、まさ目面に層状に現れ、そのため順目切削方向が部分によって異なる。

り、いずれの方向から削っても、逆目が帯状にでることになる。

このような材のかんな削りにあたっては、二枚刃かんなを用い、裏金をよく調整してかんなけずりすることが肝要である。